



全体会議6月

未来の公共交通機関を考える

6月26日、まちづくりステーション小名浜において、全体会議が開催されました。



▲全体会議の様子 (右上：講師 田中一弘氏)

講師に株式会社方ズレールウェイコンサルタント代表の田中一弘様をお招きし「いわき市における公共交通を軸とした街づくりと鉄道の活用について」と題してご講話いただきました。

今は自動車を運転し自由自在に移動できますが、やがて免許を返納する時がくるかもしれません。いわき市内の公共施設・病院または他県への移動を含め、例えば小名浜に泉駅直結の鉄道があれば、観光客や学生の方の移動が容易になり、小名浜地区の活性化、賑わいづくりにも資することになります。

もちろん、誰が中心となつてやるべきか、資金調達等大きな課題はありますが、小名浜に住む私たちが声をあげていくことの大切さを学ぶことが出来ました。未来の小名浜に鉄道があったら、素敵で便利かもしれません。沿線に公共施設や各種店舗が出来たらと考

発行所 小名浜まちづくり市民会議 TEL: 52-1275 発行日 令和5年8月10日



小野晋平翁没後80年 特別企画① 築港の先人：小野晋平と賢司

小野 浩

「国際港・小名浜」の誕生と発展には、多くの先人の努力と苦労があった。その一人いや二人が小野晋平(1885~1943)と賢司(1885~1919)である。晋平と賢司の活動は、旧海員会館(栄町)前の広場にある頌徳碑と銅像により、ある程度は知ることが出来る。その場所は、晋平が小名浜港と地域の発展を見守つていようと思えるところである。晋平は、小名浜の酒造業「清水屋」小野賢司(1855~1919)の長男として明治18年(1855)10月16日に生れた。地元の小名浜尋常小学校から旧制磐城中学校に入学生するが、校則違反(新聞を生徒は読んで

えるだけでわくわくします。小名浜のコミュニティ交通、とりわけ鉄道整備を旨とするには、地域の皆さんの強い要望と行動が不可欠です。そのような気づきを得た全体会議でした。

7月15日に海神ネプチューン大学工作部の第1回を開催しました。工作部は前半の週で海岸に行きプラごみの素材集め、後半の週で素材を使った工作教室となつていきます。残念ながら前半は雨で海岸に行くことができませんでしたが、参加者の方は事務局で用意したプラごみを使って思い思いのアクセサリーを作っていました。

海神ネプチューン大学2023 海のプラごみについて考え、行動する、体験イベント



父賢司から教わる日々は長くは続かなかつた。大正8年(1919)7月、賢司の突然の死(享年65歳)により、晋平(当時34歳)は「港づくり推進のリーダー」のバトンを受け取るのだった。賢司は、生前、町議30年、町長2期・県会議員1期という要職につき、漁港の整備に尽力していた。明治末期から大正初めにかけていわきの各浜は、沿岸から沖合の魚群(主にカツオ)をもとめて漁船の動力化が進んだ。焼玉エンジンを備えた漁船は大型化し重量は増した。漁獲量も急激に伸びた。以前は水揚げの場所は砂浜

「漁港はできた。これからの小名浜には商港が必要だ!工場の誘致だ!」大正10年から小名浜町会議員になつていた晋平は、その年県会議員に立候補し当選、県政の道に進んだ。

いけない)で校長と衝突、中退してしまう。その後、上京、遊学を経て家業に就いた。

小名浜町民願の「小名浜漁港」は、東京と塩釜間の避難港として大正7年(1918)11月、港湾修築工事に着工する。5ヶ年継続、事業工費は57万円、負担割合は、国庫27万円、県27万円、地元3万円だった。そして、大正12年(1923)5月、小名浜漁港の修築事業は完成した。砂浜は「護岸27m、埋立て21,000㎡、物揚場155m、東防波堤300m、内防波堤180m」という大変貌をとげた。その姿を晋平は、どのような気持ちで見ただろうか?



大正12年(1923)小名浜港 今から100年前

本町日曜朝市開催



小名浜本町のポケッタパークで日曜朝市が開催されています。7月は16日に開かれ、朝早くから市民の皆さんで賑わっていました。コロナ感染症の影響で4年ぶりの開催になります。

今回2回目となった朝市には、野菜・蒸しタコ・豆腐・こんにゃく・パンなど8店舗が出店し、お目当ての品

を買いに来る方々で活気づいていました。

購入すると抽選券がもらえ、商品券やスタンプなどが当たる空くじなしの抽選会があり大変楽しめる朝市です。

今後の予定は、8月20日、9月17日、10月22日、11月19日です。ただし、天候により変更される場合があります。

朝の散歩がてら、是非お立ち寄りください。お勧めです。

特務艇「はしだて」一般公開

7月9日、小名浜アークマリンパークにて海上自衛隊 特務艇「はしだて」の一般公開が開催されました。「はしだて」は災害支援能力をもつ海の迎賓館といわれます。平時は国内外の来賓客の接待や会議、国内での広報活動に用いて、有事には艇内のテラスや会議室など各区分が仮設の診療所となり、軽症者の治療を行います。

一般公開多くの人がお訪れ賑わっていました。



一般公開では、多くの観光客が自衛官と質疑応答や写真撮影で交流していました。自衛官に尋ねると「はしだて」は、東日本大震災時は福島県内各地の漁港に入港し、港から港へ支援物資を届けたり、重症患者を首都圏の病院に搬送したそうです。



お盆の過ごし方

5月にコロナ感染症が5類に移行し、今年のお盆は実家を離れている家族の帰省が増えるでしょうね。

一般的には、8月13日から8月16日までの4日間をお盆といわれます。13日に迎え火を焚き、祖先の霊を迎え16日に送り出します。先祖の霊が1年に1度、帰ってくるといわれており、その霊を迎え感謝の気持ちをもち供養する期間です。

盆棚には「早く家に帰っておいで」と野菜のキュウリを馬に見立てて飾り、

送るときは家をゆつくりと出てほしいために、ナスを牛に見立てます。

よく、お盆の期間は「先祖様が家にいるのだから、家を留守にしてはダメだぞ」と親に言われたものでした。いうことを聞かず、海水浴に行き、波にさらわれたことも事実ありました。あれ以来、お盆中はおとなしく家において家族や親戚と時間を過ごすことを心掛けるようになりました。

今の自分がいるのは、祖先がいてのこと。お盆くらいは、先祖のことをのんびり考えるいい機会ですね。

人力戦艦!? 汐風澤風 放映スタート

8月1日〜31日までの1ヶ月間いわき駅前ラトブにて、第二次大戦後、小名浜港の防波堤として沈められた駆逐艦「汐風・澤風」

をモチーフにした熱血ロボットアニメーション「人力戦艦!? 汐風・澤風」(福島ガイナックスとの共同製作)のデジタル屋外広告が放映されています。325インチと東北最大級の大画面で迫力満点です。

いわき駅近くに行つた際は、大型ビジョンで「人力戦艦!? 汐風・澤風」のアニメーションをぜひご覧ください。



人力戦艦!? 汐風澤風はYOUTUBEにて全3話配信中心



こちらから

マイメイドのささやき

約4年のコロナ禍で色々な事が制限され日々の生活に苦痛を感じていた時「1日1つでも小さな幸せを見つけてよう!」と自分の心の幸せ探しをしていたら「ありがとう。」という感謝の気持ちと言葉が以前より増え...最近には笑いじわも増えた様に感じます!

【R・H】

小名浜まちづくり市民会議とは...

小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

会員募集

小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんと一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか?

年会費 個人会員：3000円 企業会員：30,000円 団体会員：12,000円

お問い合わせ・お申し込み：いわき市小名浜字本町 11-1 (まちづくりステーション小名浜)

TEL：52-1275 FAX：52-1415

http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp

随時FBに活動状況をアップしています。見つけたらぜひ、いいね! してください。



©小名浜まちづくり市民会議 / 福島ガイナックス